

地方創生 やらまいか通信 vol. 357

一緒に始めませんか、あなたの挑戦も応援します！～共に創る これからのふくろい～

発行日：令和5年3月3日
発行者：袋井市企画政策課

袋井市建設事業協同組合と市が連携強化 建設事業の課題解決に挑む！



来年度“みらいのふくろい”を支える 建設事業促進協議会 発足

2023.2.27 @市役所「庁議室」

新たな協議会で挑む 取組テーマ

(テーマⅠ) 社会インフラの維持管理方法

高齢化の進展や、多くのインフラの老朽化などにより、各種社会インフラの維持管理手法のさらなる合理化、効率化が求められている。建設産業全体の課題に対する、『新たな手法』の検討を進める。



(テーマⅡ) 建設発生土処分のあり方

袋井市建設事業協同組合で運営している残土処分場が、令和6年末には計画数量に達する見通し。

今後の建設発生土の処分の在り方について、幅広く議論と検討を進める。



(テーマⅢ) 担い手不足・技術力の継承

官民間わず土木や建築などの技術職員の担い手が不足。これまでに蓄積された技術力の継承が困難な状況となっている。静岡理工科大学などとの連携も視野に、新たな担い手確保策を協議する。



官民で建設事業課題解決 袋井市と業界団体 来年度、協議会発足



袋井市と、市内の建設事業協同組合などで構成する「建設事業促進協議会」を発足させる。双方の協議会は、来年度、「みらいのふくろい」をめざして連携関係を一層強化していく。協議会は「新たな社会インフラの維持管理方法(①建設発生土処理方法②建設発生土処理方法③建設発生土処理方法④建設発生土処理方法⑤技術力の継承)」をテーマに設定。現状把握、分析を行って課題を共有し、試行に向けた協議を開始する。担い手不足・技術力の継承について、静岡理工科大(同市)との連携も視野に入れる。協議会の発足を前に、市役所で27日、協定締結式が開かれた。

智克代表理事は「スマートな取り組みで建設業界の明るい未来を切り開けるよう頑張ります」といっておりました。大場規市長は「官民連携で課題を解決するための体制構築への第一歩」と述べた。(袋井支局・仲瀬駿介)

令和5年2月28日 静岡新聞(朝刊)

